

## 冬休み期間の過ごし方

吉村千陽

今回のレポートでは冬休み期間のことについて書こうと思います。冬休み期間は香港とタイのチェンマイとバンコクに旅行に行き、その後 2.3 週間ほど日本に一時帰国していました。前期のテストが1月19日に終わり、22日に太原を出て香港に行きました。お昼前には香港に到着し、まず黄大仙という場所にある啬色園黄大仙寺という有名なお寺に行きました。ここは香港で最も有名な道教寺院の一つで、“願えば必ず願いが叶うお寺”としてガイドブックに必ず載っている香港のパワースポットです。壁や柱が綺麗な朱色に染められて、天井からは赤や黄色のランタンがつるされ、参拝に来た人たちがお供えしたお線香の香りが寺院内にひろがっておりとても落ち着ける雰囲気のお寺でした。私もここで自分の将来についてのことをお願いしてきました。次に香港では一番の繁華街である尖沙咀海濱长廊に行きました。そこはよく香港映画に出てくるようなネオン通りで夜の通りの景色がとてもきれいでした。ちょうど夕飯の時間だったので飲茶のお店に入り香港の料理を堪能しました。太原にいるときはいつも学食で安くておいしいご飯を食べていたので、お会計の時なかなかお値段で驚きました。夕飯後は香港で一番有名な夜景“100万ドルの夜景”を見にヴィクトリアハーバーに向かいました。その日はあいにくの霧で、あまりきれいには見えませんでした。ぼんやりとでしたが香港の夜景をしっかりと目に焼き付けました。

香港観光が終わり、タイに入国し一週間タイの北部にあるチェンマイに滞在し、その後首都であるバンコクで二週間程滞在しました。タイは中国人が選ぶ人気観光地ランキングで毎年首位を独占しているらしく、タイ国内で中国人や中国語をよく目にします。タイには何度も来たことがり、中国語表記がたくさんあることは知っていましたが、私が今回の滞在で一番驚いたことがあります。微信(We Chat pay)と支付宝(Alipay)がどこのお店でも導入されていることです。最近のお店はもちろん、昔からあるようなお店や、小さなお店、コンビニなどどこに行っても微信(We Chat pay)と支付宝(Alipay)の支払いが可能のマークが入り口に貼ってありました。ここまで中国の文化がタイに入り込んでいることにとても驚きました。日本ではまだまだ流通していないようですが、日本も中国人が選ぶ人気観光地ランキングでタイにつづき二位なので導入される日も遠くないと思います。



青園黄大仙寺の入り口と境内



100万ドルの夜景



バンコク市内の電光掲示板で宣伝されていた支付宝の広告